

学位論文審査結果の要旨

博士課程 甲	第 号	氏 名	Mathurot Suwanruengsri
審 査 委 員	主 査 氏 名	佐藤 礼郎	
	副 査 氏 名	末吉 春雄	
	副 査 氏 名	若川 善隆	
[論文題名]			
<p><i>Mycoplasma bovis</i> May Travel Along Eustachian Tube to Cause Meningitis in Japanese Black Cattle</p> <p>Journal of Comparative Pathology, accepted, 17 pages, 12-August-2021.</p>			
[要 旨]			
<p>上気道および下気道におけるマイコプラズマ・ボビス (<i>M. bovis</i>) 感染は、経気道または経口感染するとされている。子牛の中耳炎の主な原因は、<i>M. bovis</i> の単独または他の細菌等 (<i>Haemophilus somnus</i>, <i>Pasteurella multocida</i>, <i>Streptococcus spp.</i>, <i>Actinomyces spp.</i>, 耳ダニの <i>Raillietia auris</i>) との混合感染で、感染経路としては外耳から、中咽頭に定着後に耳管を介した感染および血行性の感染が報告されている。本研究では、<i>M. bovis</i> 中耳炎ならびに髄膜炎の主要な感染経路を明らかにすることを目的とした。<i>M. bovis</i> 感染が疑われる臨床症状を示し、予後不良で廃用となった黒毛和種牛 10 頭 (2~17 ヶ月齢) から、扁桃腺、耳管、側頭骨、肺、髄膜、脳を収集し、<i>M. bovis</i> の検出と組織学的検査を行った。結果、<i>M. bovis</i> 遺伝子は、10 頭すべての複数組織から検出されたが、耳管の PCR では <i>M. bovis</i> 以外の中耳炎または呼吸器病起因細菌遺伝子は検出されなかった。また、10 例中 2 例で髄膜脳炎、1 例で髄膜炎が肉眼的および病理組織学的に観察された。第 VII および VIII 脳神経はすべての症例で正常で、病変部以外の組織に著変はなかった。このことから、隣接する化膿性病変から髄膜への <i>M. bovis</i> の直接感染が示唆された。中耳炎は、10 例中 8 例でみられたが、外耳から感染が波及したものはなかった。<i>M. bovis</i> 抗原は扁桃と耳管に存在していた。これらの結果から、本研究中の <i>M. bovis</i> 中耳炎は、外耳または血行性に感染したのではなく、中咽頭から耳管を介して感染したと結論付けられた。</p>			
<p>本論文は産業動物臨床分野において、<i>M. bovis</i> が原因と考えられている、難治性中耳炎の治療および予防につながる極めて重要な知見であり、学位論文に値すると判断した。</p>			